



PROJECT

長期研修で持続的な 資源開発を担う 人材の育成に取り組む

実践能力とマネジメント能力を鍛える

画面に映る参加者の顔。それぞれにとって知っている顔もあれば初めての顔も。

2021年8月に「脱炭素化と必須資源」をテーマに開催されたオンライン勉強会に参加する彼らは出身国も現在地も違います。共通点は「資源の絆プログラム」を通じ日本で学んだ経験があることです。

この資源の絆プログラムとは、開発途上国の資源分野の人材育成と、これらの人材と日本の資源開発関係者との人的ネットワークを強化することを目的としたJICAの長期研修です。2014年度の受入れ開始以来、累計で27カ国149人がこのプログラムに参加しています。

プログラムの参加者は、日本の大学の修士や博士課程へ入学し、それぞれの出

身国が抱える課題と解決策に関する研究を行い、学位の取得を目指します。また、鉱山の視察や、資源系企業でのインターンシップなどを通じて実践能力を高めるほか、資源政策や鉱山経営、鉱業契約、地熱などに関するJICA独自の研修コースでマネジメント能力の向上にも取り組みます。さらに、研修期間中に出身国で現地調査を行う機会をつくり、論文執筆のためのデータ収集などを行っています。

帰国後も続く「絆」

名称に「絆」とあるように、JICAはネットワークづくりにも力を入れています。プログラムで形成されたネットワークは帰国後も拡大します。冒頭のオンライン勉強会、通称「資源の絆塾」もその一環で、2021年から始まりました。また、SNSを活用したネットワークが構築され、JICAから関連情報を提供する場、日本にいる研修員や帰国研修員がつながり動画で近況報告をする場などとして、とても重要な役割を果たしています。

こうした協力に加え、JICAは帰国した研修員の活躍を後押しするため、研修員が所属する大学に対して、資源探査や資源利用に役立つ分析装置などの研究用機材を供与する計画も進めています。



フィリピン:ルソン島カマリネス・ノルテ州のフィールドで物理探査(VLF法)を行う研修員

DATA

資源の絆プログラム

開始年
2014年
受入国数
27カ国
受入人数
延べ149人

※実績はすべて2022年3月現在

VOICE

母国の発展に貢献したい



秋田大学大学院 国際資源学研究科 博士後期課程
ドルカス・リンダ・エルネスト・ウアシケテさん

母国のモザンビークでは貴重な石炭資源が自然発火で焼失することが多く、その仕組みを解明したくて応募しました。このプログラムで国や研究分野の異なる人々と交流できたことは大きな財産です。帰国後は学んだことを生かして国の発展に貢献するだけでなく、特に女性が科学分野で活躍できる環境をつくっていききたいと思います。